

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800259		
法人名	株式会社エルフ		
事業所名	くつろぎの家エルフ・神陵台		
所在地	神戸市垂水区西脇1丁目4-9-1		
自己評価作成日	令和 4年 2月 25日	評価結果市町村受理日	令和4年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosvo_index
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和4年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の2年目、昨年同様外出制限もありいつものように散歩にお連れすることが出来なかったが、近所の公園にてお花見をしたり、芋掘りに出掛け気分転換ができた。ユニットごとの入居者様同士、職員同士の相性を考慮しユニット内での異動も行っている。かかりつけ医師の訪問診療だけでなく皮膚科、精神科、眼科、整形外科、泌尿器科の受診援助も行っている。家族様との関係性が途切れないようこまめに連絡を行っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2014年に開設され、閑静な住宅街の中にある。平屋建ての建物で、他部署と併設しており、二つのユニットは入り口が別で、広いリビングと高い天井は開放感がある。法人は関西に多くの介護施設をもち、事業所の近隣にも同法人の経営する地域密着型の事業者が複数ある。事業所の中では、理念にあるように、利用者は新聞を読んだり、テレビをみたり、居家で休まれたりと、個々の時間を思うがままに過ごされている。最近、外国の技能実習生が新戦力として、現場で一翼を担い、利用者や職員の良い刺激になっている。また、ここ数年、退職した職員がおらず、人員も安定している。コロナ下で、外出は思うようにできないけれど、できるだけ利用者に寄り添い、安心と安全のもと普通の生活を自由に過ごしていただきたいという管理者と職員の意欲と努力がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社の理念を掲示している。内容を要約し短文での掲示も行っている。また、入社時の説明は必須として行い随時職員への周知を行っている。	ユニットの入り口に、法人の理念を要約して、「普通の生活」「高齢者の価値を下げない」という文章を掲示している。ごく普通の暮らしが、高齢になっても自由にできるようにという思いがシンプルに表現されている。開設以来変わっておらず、独自の理念への作り変えは考えていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様外出を控えて居た為、外出レク、外食、買い物等出来なかった。	開設後、徐々に地域とのつながりもでき、事業所の認識もできていたが、自治会が解散し、コロナ下で外出を控えているため、住民との交流は少なくなっている。事業所の駐車場が広いことで、近所の人が借りに来るなどの関係性はある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの周知とともに地域の一員であることを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的にサービス利用状況や活動報告を行い封書にて送付している。	隔月に書面開催し、活動報告や事故報告を記した議事録を家族や関係者に送付している。家族に向けては、事前にアンケートを同封し、意見を募っているが、特に返事はない。事故報告の件数に比べ、ヒヤリハットの件数が少ない。	事故かヒヤリかの区別の基準を見直し、ヒヤリハットの書式を工夫してはいかか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様が多いこともあり垂水区支援課とは常に連絡を取っている。家族様のアプローチについても常に相談しながらすすめている。	併設の地域包括支援センターは閉鎖したが、生活保護の利用者のことで、ケースワーカーが状態確認に来るなど、区の支援課とは常に連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様が外に出たい時など可能な限り、外に出れるようにしている。	身体拘束適正のための検討委員会は3か月ごとに開催、虐待防止委員会を兼ねている。玄関は開錠しているが、各ユニットの出入り口は施錠している。利用者の言葉をさえぎったり、気持ちを抑えつけないよう、職員同士で確認しあっている。	事業所の外の敷地が広い為、環境整備をすることで、施錠の制約を緩めることができるのではないかと。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修での必須項目として研修を実施している。職員の無自覚による言葉の暴力の可能性について日常的に職員同士で確認しあう事を申し合わせしている。	年間の研修計画にも含まれている項目である。声のトーンが大きく、利用者に不安を与えるため、注意をした例がある。管理者は職員のストレスが原因でケアに影響していないか、話し合って対応している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している入居者様が2名いらっしゃるので、身近な事例ではある。	現在、2名の利用者が制度を利用している。後見人の方が熱心に支援してくれているため、職員は大変助かっている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入試時に丁寧に時間をかけて説明し理解・納得して頂いている。	契約は時間をかけて、丁寧に説明している。「終末期の医療について事前調査書」の同意を得、入院時には家族でないとできないことや、緊急時の対応など、家族の協力が必要であることを伝えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前々回のアンケートにて、TELLずらい等ありショートメールなど利用し対応を行っている。	毎月発行の広報紙に99歳のお祝いの写真をのせることで、家族からお礼の返事があつた。面会ができない中、新聞や写真は、家族の意見や思いを引き出すツールになっているため、今後も活かしていく。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場にて一緒に働いている為、愚痴や意見など聞く機会は多く一緒に考えながら対応している。	定期的に面談は行っていないが、現場で働いている中で意見を聞き、対応している。職員同士の人間関係についての相談が多い。外国人実習生については生活自体を細かく気にかかけ、何かあれば都度相談にのっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の都合を優先・考慮した勤務体勢を心がけている。残業は無いように指導実施している。有給取得職員の希望は可能な限り聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を希望する職員については勤務体勢を考慮している。受講料負担等バックアップしている。初任者研修、実務者研修、実践者研修、の資格取得の為の受講を推進している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等の参加の機会も現状では、行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	詳細については可能な限り傾聴し聞き取る努力をしている。家族様からの聞き取りも併せて事前情報として職員への周知を行っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とお話はじっくりときかさせていただき、連絡もこまめにさせていただいている。遠方の家族様へはくつろぎ新聞にて日頃の様子をお伝えしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は詳細に記録をとり様々角度空情報収集を行っている。職員間での情報共有に随時対応出来ている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本にがおできになることは極力ご自身でいただけるよう働きかけしている。職員は常に感謝の気持ちを言葉にして伝えるように心がけている。利用者様に教えていただき学ぶという姿勢で臨んでいる。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通所支援・外出支援に際し家族様の協力を得られるよう働きかけている。現在はしていませんが、施設内行事・運営推進会議への参加も願います。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけることや手紙を出すお手伝いをしている。	気軽に散歩ができる公園が近くにあり、馴染みの場所となっている。以前は、昔の友人が訪ねてきたり、移動パン屋を楽しみにしていた。今も家族や友人からの電話を取り次ぐなどの支援をしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性が良好に保てるよう配席には配慮している。個別でお話を聞かせて頂きお互いの理解が深まるよう橋渡しをするなど心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要案件が発生すれば必要な助言・相談を行い支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人と向き合いお話するよう努めている。ご本人の希望をお聞きしその思いが叶うよう心がけている。	普通の会話を重視し、その中で聴き取った思いを日誌に記録し、スタッフで共有している。「家に帰りたい」という言葉の中で、なぜ帰りたいのかをじっくり聴きとることで、実は兄弟に会いたかったという思いを把握することができた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りを元に、日頃の会話の中で得られた情報を市区院に周知し、記録等でも情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの低下防止を年頭に置きここに必要なサービスを提供している。出来ることは積極的に実行して頂けるよう配慮している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を軸として職員間での意見交換を行っている。日頃のきずきを記録日誌や申し送りノートを通じて共有しケアプランに反映出来ている。	利用者ごとの担当を決めており、モニタリングは毎月、担当職員が記入し、それを計画作成者が介護計画に反映している。家族には電話で要望を聞き、関係者で話し合った結果をもとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・介護記録日誌・連絡ノート等により情報を共有出来ており介護計画に反映できている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況により、買い物や受診など柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な暮らしが出来るよう、外部との交流は必要最小限にしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療や定期受診されている。又個人のご希望や状況に応じ通院支援も行っている。	事業所の協力医を主治医にし、月2回の内科医と月1回の精神科医の訪問診療を受けている。毎週1回の歯科の訪問診療により口腔ケアの支援を受けている。家族の希望に応じ、その他の医療機関に家族の付き添いで行く利用者もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡ノートにより日常の詳細を把握し日常事項は伝達できている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟看護師、相談員と連絡し情報収集に努めている。	入院は主治医の指示による事が多く、事業所から情報提供し医療機関から情報を得ている。発熱があり入院した利用者は、肺炎(気管支炎)と診断されたが、1週間で退院した。退院時サマリーによる情報を基に、事業所での生活を支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意思確認を行い事前調査票を記入して頂いている。重症化した際にも、何度も家族様と話し合いを行い支援を行っている。	契約時に、「終末期の医療についての事前調査書」と「当施設における医療体制の説明書」を提示し、医師の診断で終末期が来たら、改めて意思確認書を取り直している。入院希望と事業所での看取り希望があるが、看護師による看取りに関する研修を行い、希望時は家族の思いを受け入れる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制等、日頃より話し合い確認している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難場所を貼りだしている。日頃の会話の中でも場所の確認を行っている。	避難訓練は利用者と共に、夜間想定も含め年2回行っている。ハザードマップに災害区域の指定はなく、避難先が小学校である事は周知しているが地形的に難しい為、近くの高台にある公園と申し合わせている。運営推進委員や地域住民には避難訓練等の協力依頼はしていない。	運営推進委員や地域住民に、訓練開催の周知と見学の誘い掛けをされてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内での介助であっても必ず「させていた	自分が言われて不快なことはしないよう留意し、トイレ誘導等は「ちょっと立ちましようか」や「ちょっと向こうへ」等と、トイレの言葉を使わず誘っている。食事等の好物は事前に家族から聴き把握し、意思表示が難しい利用者は2者択一の方法で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能であるよう声掛けを行い、選んでいただけるようにしている。何事にもご本人の意思を確認した上で支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の得意分野や趣味を把握することで出来ること、したい事をしながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や身だしなみについてはさりげなくアドバイスさせていただいている。衣服の汚れや乱れについては随時注意し清潔に過ごして頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後の準備や片付けなどで一緒に出来ることはお願いしている。	食事は、ご飯とみそ汁はユニット毎に炊き、調理済みの副食が届き温めて提供している。利用者は、食事ごとのメニューを白板に記載したり、食後にトレー拭きやテーブル拭きを手伝っている。職員は弁当持参し交代で食し、休憩時間を確保している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分摂取量が十分であるよう支援している。水分、食事摂取については記録をとっており不足時には高栄養飲料の提供をしている。体重測定は毎月施行。記録している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごの口腔ケアはここに適した方法で各自に実施している。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度の重い方についてもトイレでの排泄を支援している。排泄記録もとっている。	日中はほぼ全員がトイレで排泄している。居室のポータブルトイレで自力で排泄していた利用者が、転倒の危険性が生じた為、職員によるトイレ誘導を繰り返して失敗することが減った利用者や、退院後の利用者のトイレ誘導を多くし、リハビリパンツに移行した事例がある。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージを行ったり、温めたり、ヨーグルト、乳酸飲料をすすめるなど積極的に行っている。排泄記録をとり医師や看護師に相談し緩下剤等での調整を行っている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週間での予定ではあるがご希望に応じ随時対応している。	入浴は日曜日以外毎日午前中に行い、週に2回以上を確保している。シャワー浴を希望する利用者もいる。利用者ごとに湯の入れ替えをし、清潔な環境で入浴支援をしている。管理者はゆず湯等で季節を感じて欲しいと考えている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿い照明・室温には細やかに配慮している。寝具・暖房器具等についても細かく調整出来ている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排泄状況等は細かく記録しており医師・看護師への連絡・相談により連携をとり服薬調整を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みのものが提供出来ている。レクリエーションでは、卓球・百人一首・トランプ・カルタ・カラオケ等で気分転換をしていただいている。又ボランティアの訪問時は音楽など楽しまれている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年も自粛し、お花見と芋掘りだけで外出はあまり出来なかった。	コロナ禍で外出が難しい中、今年度は近くの公園で花見をしたり、秋には芋ほりに行く事ができ、駐車場で外の気浴を楽しむ機会もあった。個人的な外出希望には応じ難い場合もあるが、職員体制が可能であれば叶えたいと管理者は考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に沿って使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけておられる。手紙のやり取りについては投函のお手伝いもしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分の壁画は毎月季節をとり入れ、入居者様にも季節を感じて頂けるよう工夫している。トイレ等は不快臭がないよう掃除をこまめに行っている。照明や空調、換気もこまめに行っている。	リビングの壁に、今年の絵馬を手作りし利用者それぞれの願いを掲げている。お雛祭りや四季折々の貼り絵を手作りし、ユニット毎の特徴を出し季節感を出している。リビングには温湿度計を設置し、換気に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを配置しており各自が自由に居場所を求め思い思いに過ごされている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にお家で使われていたものなど持ってきて頂き、居心地よく過ごして頂けるようにしている。	事業所からは、エアコン、ベッド、クローゼット、カーテンなどが設置され、利用者は使い慣れた家具や仏壇、遺骨を持ち込んでいる。元気なころに作った手芸品を一面に並べている利用者や、中から鍵を掛け休む利用者などそれぞれが居室を我が家として暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人がそれぞれに思い思いの時間を過ごされている。考え込まれている時や表情の硬い時などは、声掛けをし、傾聴している。		

(様式2)

事業所名:くつろぎの家エルフ・神陵台 グループホーム

目標達成計画

作成日: 令和 4年4月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策で、利用者様と職員の避難訓練は出来ているが、防災用の食品と水の備蓄が出来ていない。	最低3日程度の非常食と水の準備	出来るところから早急に準備を行う。	3か月
2	4	ヒヤリハットの提出が事故報告書に比べて少ない。	事故報告よりも、ヒヤリハットを増やし職員のきずきを増やしていく。	記入しやすいように、書式の変更を検討も考える。	6か月
3					月
4					月
5					月